かわさき区の宝物シート

宝物No.
5-2

ちょうじゅうろうなしのふるさと

長十郎梨のふるさと

若宮八幡宮境内に移植された長十郎梨の苗木

昭和25年頃の長十郎梨園

写真提供：倉形泰造氏

エリア	中央地区 旭港	シーズン	通年
		日時	

目的	□ 観る　□ 遊ぶ・体験する □ 食べる　■ その他
宝物定義	■ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　□ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　■ 人物

所在地	川崎区旭町1-3
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	京急大師線港町駅より徒歩10分

マップ

基礎情報

■病害に強く、甘味があり、収穫も多いことで有名な「長十郎梨」。この梨の生みの親、当麻辰次郎の故郷、大師河原村出来野（現在の日ノ出町）が発祥の地である。明治26年(1893)、多摩川の河口近くで辰次郎が発見したと伝えられる。評判が良く大正初期には全国の生産量の8割を占めた。
■現在、区内では長十郎梨はつくられていない。六郷橋のたもとには案内板が置かれ、また、川崎大師境内には大正8年(1919)に辰次郎の功績を讃え建立された記念碑「種梨遺功碑」が残っている。

由来・エピソード

■かつて多摩川下流域の両岸、川崎区・大田区の広大な河川敷一帯は梨の一大名産地だった。大師地域での梨づくりは江戸時代に始まったとされ、明治時代に入りますます盛んになった。明治26年(1893)に現・日ノ出町の当麻辰次郎の梨園で発見されたと伝えられる新種は、同家の屋号から「長十郎梨」と名付けられた。長十郎梨は多摩川に沿って北上、大正時代には関東一になるほどの発展をとげ、「多摩川梨」というブランド名も生まれた。やがて全国に広がると、一時は全国の梨栽培面積の60%にまで広がった。一方の川崎区ではその後工業化の進行に伴って次第に梨園は姿を消していった。
■発祥の地川崎区に長十郎梨を復活させようと、現在の生産地多摩区から川崎区まで苗木を大八車で運んで植樹するイベント『長十郎の里帰り』が平成17年(2005)1月に開催された。多摩区在住の俳優中本賢氏らが中心となった「長十郎の里帰り実行委員会」（多摩川クラブ、砂子の里資料館、若宮八幡宮、稲生ロータリークラブ、川崎市理容組合、慈酒乃会など）が主催。多摩区菅の農家から提供された樹齢3年目の苗木を大八車に乗せ、二ヶ領せせらぎ館（多摩区宿河原）から、幸スポーツセンター、多摩川河川敷を経て、川崎区内に入り若宮八幡宮に到着。当麻辰次郎の子孫や新成人、阿部市長が参加し、盛大に植樹式が行われた。長十郎梨の木は、若宮八幡宮で大切に維持管理されている。

補足・その他

■当麻辰次郎の墓は医王寺にある。
■明治中期の俳人正岡子規は川崎を訪れた際、『 行く秋の 梨ならべたる 在所かな 』 『 川崎や 畑は梨の 帰り花 』 『 梨くうは 大師戻りの 人ならじ 』 『 川崎や 小店々々 梨の山 』 『 川崎を 汽車で通るや 梨の花 』 『 徒歩で行く 大師詣でや 梨の花 』 などの句を詠んでいる。
■川崎河港水門の頭部にあるオブジェは、往時の川崎の名産物、梨やブドウ、桃などがモチーフにされている。

関連シート

(5-5)川崎河港水門
(10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
(10-17)川崎大師平間寺
(15-2)出来野厳島神社